

西洋道

上

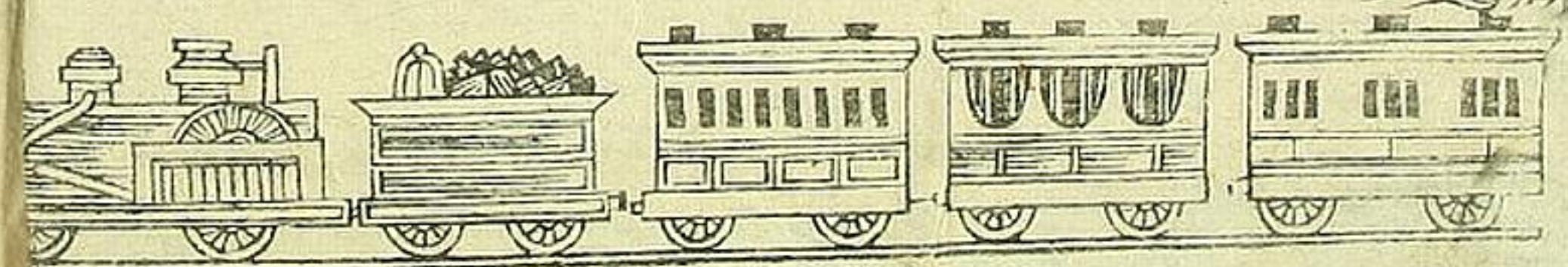
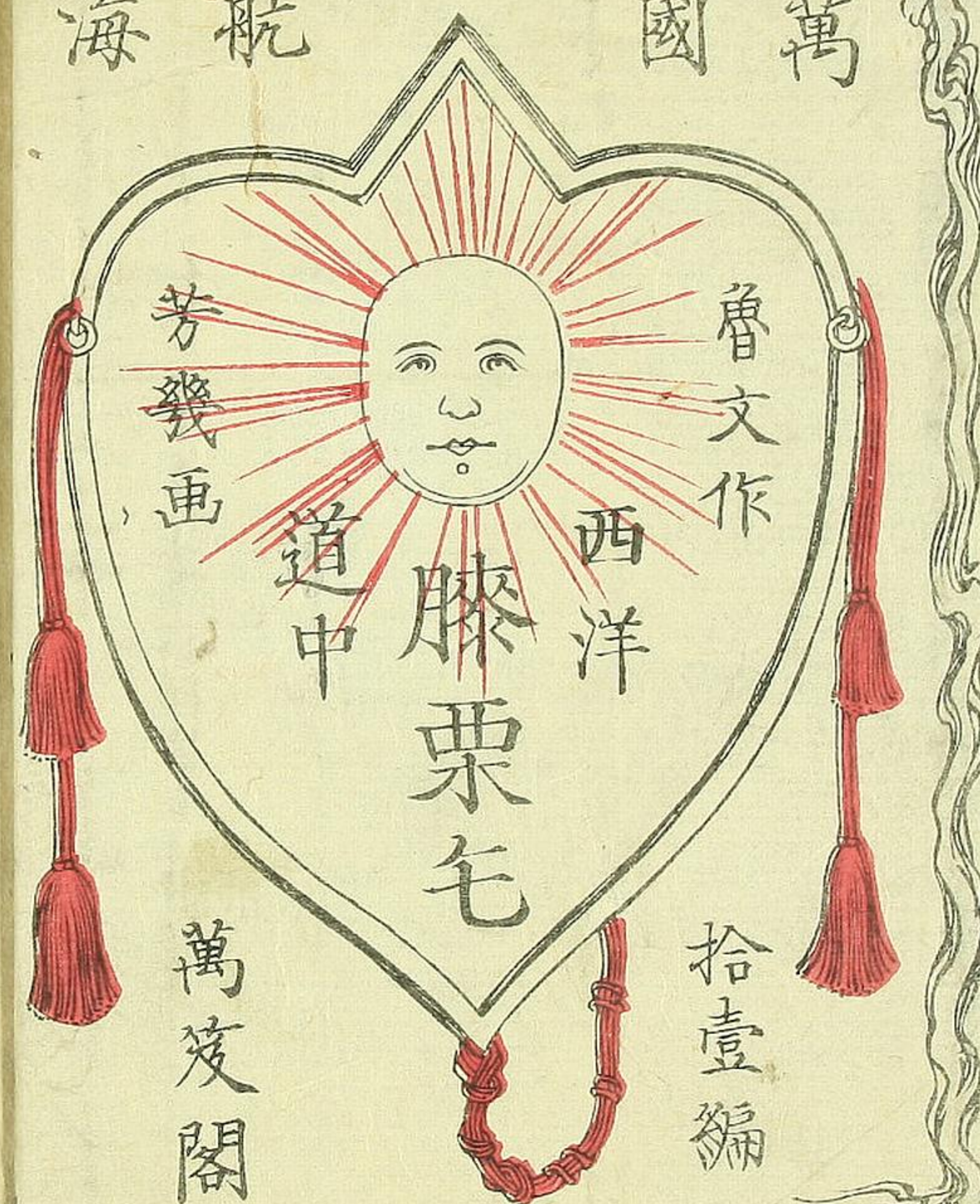
編

上



A 750
20

萬國航海



西洋道中膝栗毛第拾壹編叙

歐羅巴諸國の小説草冊子の等類あ

然ども稗史戯作など支那風小卑め号

ず平等に書籍と呼ぶ抑小説の談趣向

架空ふ出れども事情ふ於けるや世態ふ反す

る事な故もるに開化の見をとりて論る時ハ

48-7782

小説も大道の榮はして寓言必は催實乃證
たりあんぞ戯れのゝゝゝんや唯文章に雅俗
あるものて學者の忌とて然今日に至るゝ
迂遠の漢学も終身温奥と極めんより寧
年歳の小説と讀書せんゝた理ありとて
自今以て稗史の号を廢し戯作者の戲の

字を除き著作師或は著述家と称て可
らん友人假名垣氏發義勸懲の著述談笑
諷諫の意匠茲ふ歳ありと都て凡情を穿つ
や地道の如く流行ふ疾こと傳信機乃音便
を待たば他の知らざる深意を探索眼乃
及ばざる状景を見出に至るゝ毎編看

官ひとの肝き膽もを冷さむら令しむ言ご々々奇き々々妙みょう句く々々新しん発はつ
明めい曾そうて魯ろ子しが筆ひつ頭とう彼かの自じ助ちよ論ろんは所しよ謂ゐ下
情ぢやうとめと政せい體たいとほるの基き本ほんゆと有いう名めい無
實じつの腐ふ儒じゆ輩はいと同日どうじつの談だんめあはば僕がく當たう編
と毎まい部ぶ閱けつくと感かん心しん浅あさくと依よる簡かん端たん
は数すう行かうと譜ふと活くわく眼がん同どう好かうの披ひ見けんと進しん勸ま志

ゆゑこゝとあらう

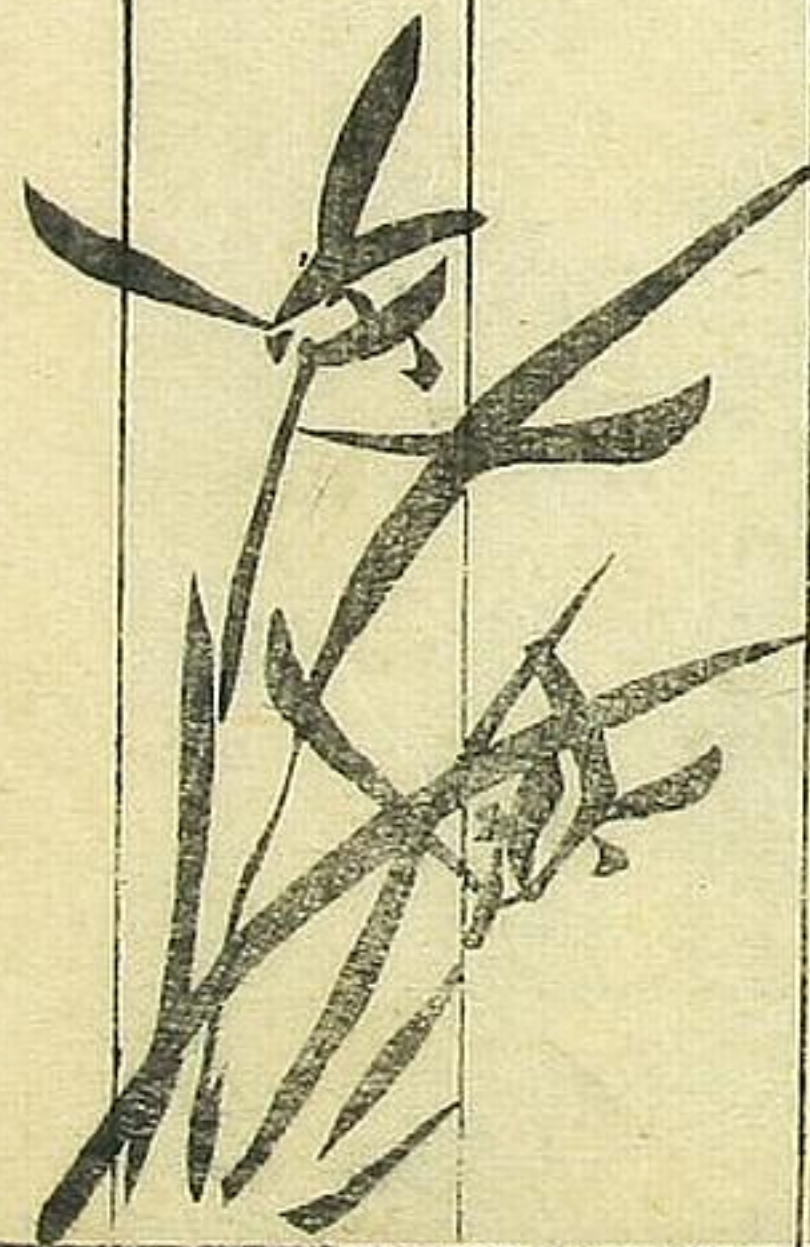
壬申孟春

葛峯久保田重信識



ふき草花の香

ふき草花の香



西洋膝栗毛十一編自序

方今開化一時に進む余輩僥倖に學ばざる子曰
迂遠を去り經驗窮理の洋風に傾き市街の兒童
等もて效子坊主の支那頭を殘裁の歐羅巴流に
一変し孔氏の遺書をへげやと英字佛の横文エビシ
四百余州をめぐりての萬國世界五大洲天地の理を
知る開端にましまる目出度き
御代は新玉の春

待ち得たる心地なれど而して廢藩舊知事乃
公達子も無僕獨歩の世間を見知り歸農の扶持
ら飛鳥河水を流しと商法開業父母在せども遠
く遊び艦砲發二千里且道を聴くとも夕ふ死に
と可なりとせば牛肉を食しビールを飲め體
を壯健めして壽を保ち利を得る國を富める
誠以て今日の報恩とて嗚呼楚の三閭大夫時

と得ずして清きも浄きと称するに難く伯叔
世ふ先行く潔きも又潔きと讃はるる況
や目今ふものゝや故もふ當世の時勢と
知らば孔氏の門ふお茶を挽くとも中華の仲の
町張と潜上る徒も儒者馬鹿等しいもの
少く季の偏固の局見世も切と賣り下落も有
るぞし任他我が姫氏國も開闢の突出しより二

ツ星乃位と落るる今ふ及びも細見の坐と下ら
ざる一寺官版図の内ふ居るものぞに踏と開もた
る外ハ文字の道中の駒木履と轎も換たる
膝栗毛十一編乃長史と御覽の程も御らん
だるものぞがこれ橋のかんゝ屑紙屑筆と思ひの
外御見すとも梓店へ次る未幾歎と御は
こびも王盛界の御國恩もものゝあゝ難う

嬉悦んで謝す

明治第五年壬申孟春第一月初二日
横濱の妓院新玉樓乃立退ふ初夢と
結ぶの間歳玉の鼠寸楮ふ試筆

青陽山人

假名垣魯文誌



西洋道中栗毛双録



北次 弥次

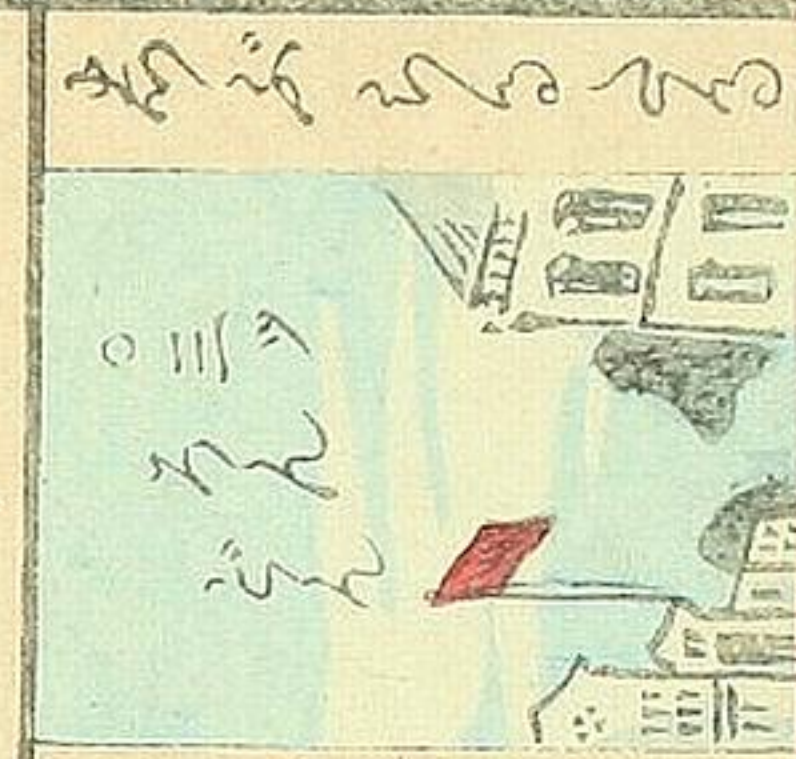
西洋道中栗毛双録



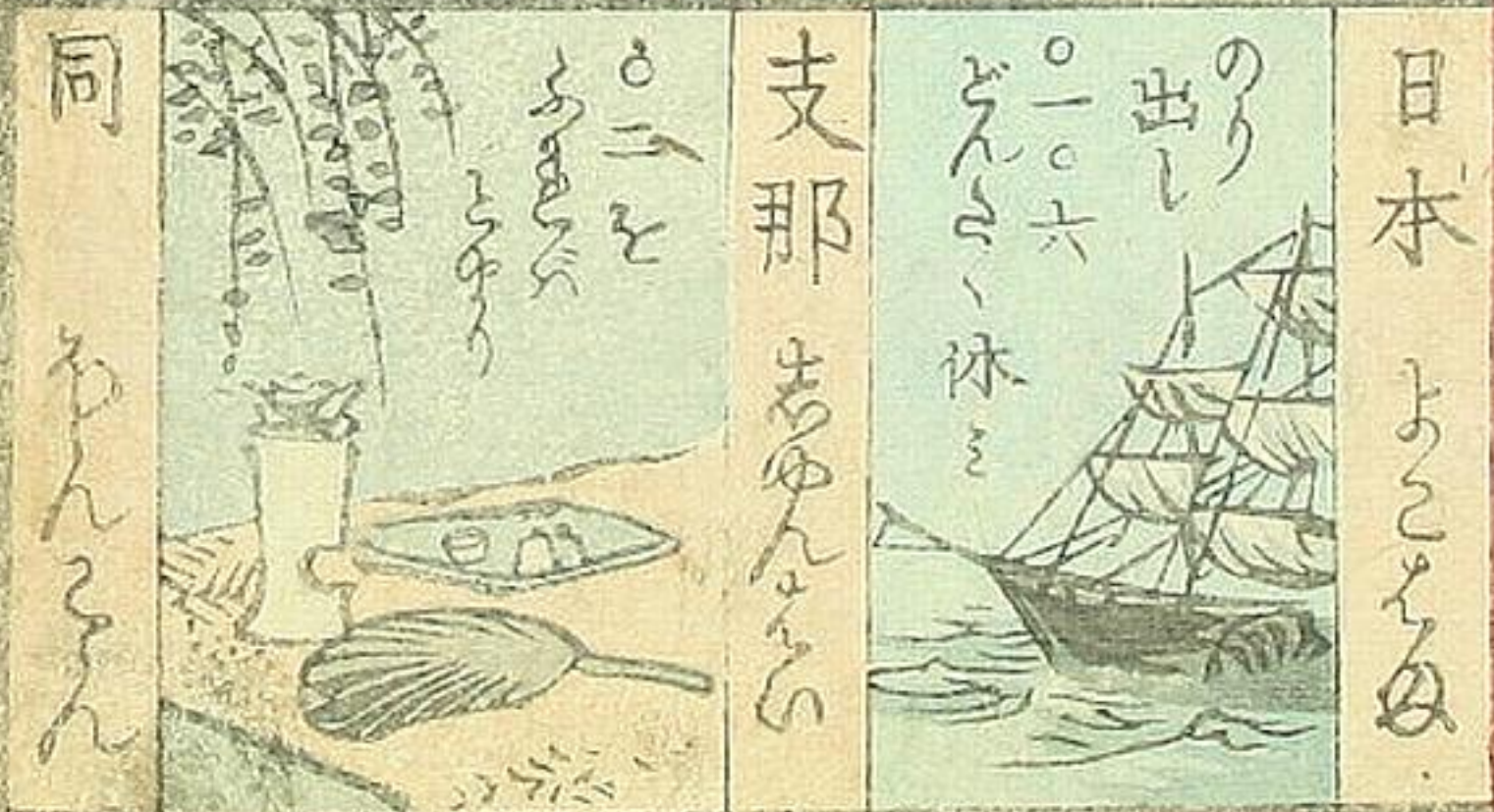
おーいおーい



おーいおーい



作者假名垣魯文述

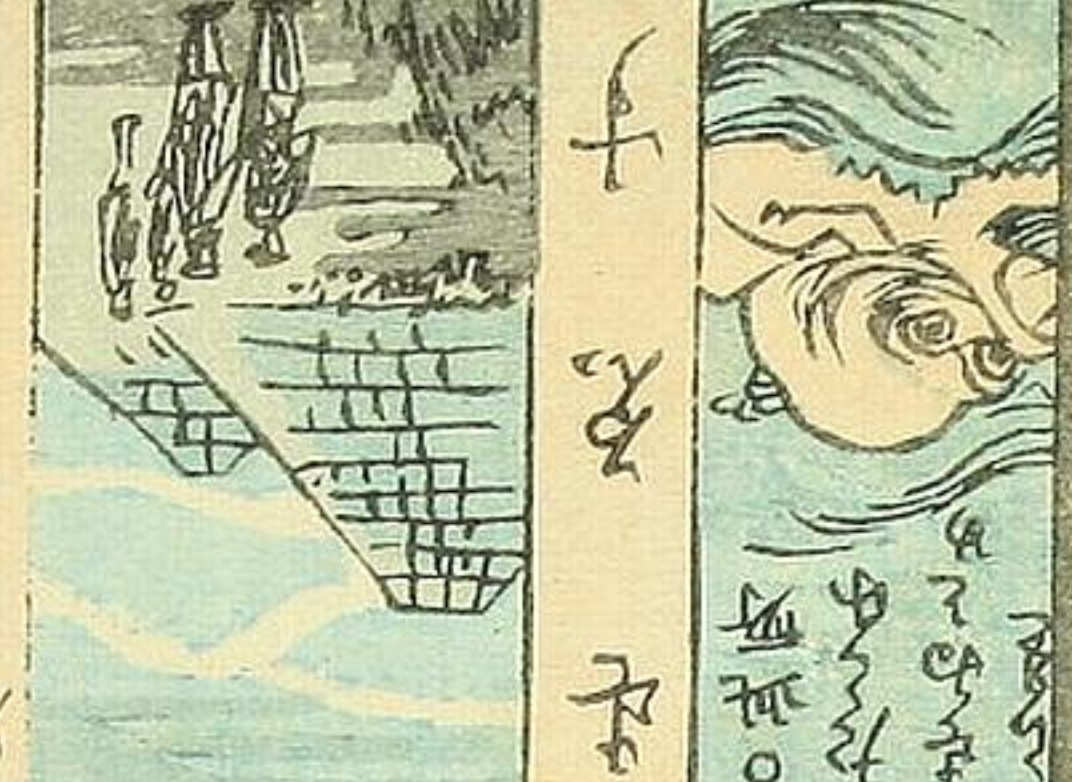


日本 よこしめ

支那 あんた

おーいおーい

おーいおーい



おーいおーい



利龍頓王府



画工一惠齋芳幾画



おーいおーい



印度 せいろん



西洋道中栗毛双録

一

題七國人乘合圖

Nayapiyona
 tononemulino
 minumekume
 numinorebunena
 otonoyapipunu

西洋道中膝栗毛十編上

東京

假名垣魯文著述

朱ふ交まが紅海の水ふ深し我國人西洋航海の事個
 事いふ國も糸畑の弥次郎北八の二人りの者が馬車より
 落し事件ふよりと心ちあらずも領禄の府中ふ五
 六日逗留あり一役等が怪我の愈る及びて再々惡氣な
 ふふふなるく亞歷散大の地ふ古器物を一覽せざるを
 目偏るのしとふつとと博覧會の好様ふふ遅れ

んこゝを針うてたゞちふ飛御船とお海より地中
 海の怪割みおはせマルタ橋ふちまうくジブラルタル
 おもんとすけ回送程八百五十余里お七日お達すべし
 おも船中剣日のゆく海と無事の乗合をる 通一チイ
 行ひさん僕ハちふゆみおかりいこゝちねんがお角
 洋航して世界有名の快緑のピラミドとてお物一ねん
 のが迷憾ダヨこりやア全く北さんのおうげご子北一
 イ通さんおめえ未ダカイロの一件を執念おぼし思ッ

てあるのう子通一あおサピラミドとておねんくらサ北一
 きごの遠恨お思ひおちやアおぼえおが思イぜ角已
 ア中よりとてこちからそんなことお忘れくおま
 ツの時お眼おめられちやア飲ぶ酒を吐逆やらあ
 のんだぜノウ跡はさん 跡一アハ一成程おめえあや
 解せえん今通さんぐ迷憾だと云つたのを迷恨
 とおイたのぞらうぐおんといお跡うおのこり
 漢語だヨ通一こりやア僕があやまのりダおさんや

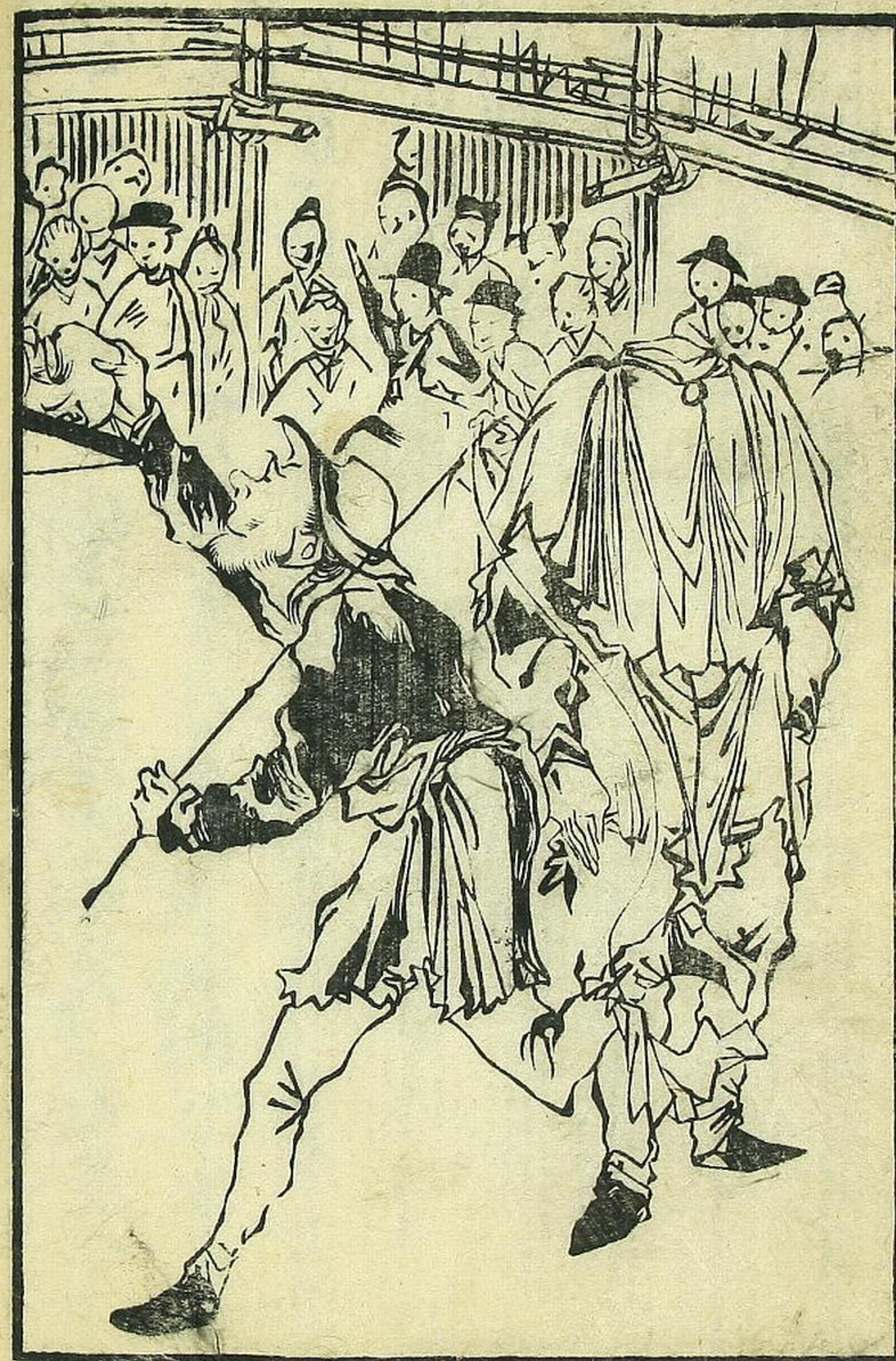
ア漢終の禁物だツケアハ、北「何サ息子たうま
幕さる人二年断た漢語あら初編く食つけ
ておやすがおんとおんと他人ごとの事を付く
ウツタ「あし息子せん食や、彼家ぞ漢語せん
食やア遺憾だとおやうある同遠へありがら
ダ通「それのおあきにしてマイ、商者どんかめ人達
ハ親方と一知ふ蒸氣車でピラミトをとん物たり
アレキサンデルへも行つてさうだが愛つてこそでも

有つた子商者そとく「イヤ大あり、沢山あるそり
うらめりさんあは北「タヤあつう洒落るせ先生ハ沙汰
あふヨ「ハケあさんかめ人洒落の先生のつりうねあ
やまといり習うひる人「商どんいらつるあ
あやれうよ達ツタゼ通「そりやア初学院のまじり
ドルを惜るダ北「將ふまのまぶ希くたう子先
生のあやれだけあつて北ねあやま「い
出すふサゾせらるるツたらう通「出店病痛う鶏



歐羅巴の演戯前
 狂言首賣と観物
 の略圖

二巻書博と時老河



西洋演劇の略圖

四

らゝか廃止北「あやうそ」の生ざ禪ぜんのかたちサテ
サテ、沈つぎのちかれ葉は「東くわい西さい」だまのつてまゐら
ま「エ」くおぢ北「ウンそうだらう」通「やうほイ
レイル」ま「まがサ彼あいつ時通ときさんと弥やさん北八きたはちさん
モテルさんの案内あんないで下車しやまは入いりかけ、後あとで親おや方の
助すけへ北「そあ」の中うちだが親おや方の名なをたがせ、
止とまてゐるお鼻はなのやと鼻はなして女達おんなたちと人ひとたをちかめ、
ッ付けて供とも七しちどんふ自己おのれと別當べつどう「是こゝの裏うらにおる七人しちにんあつたの

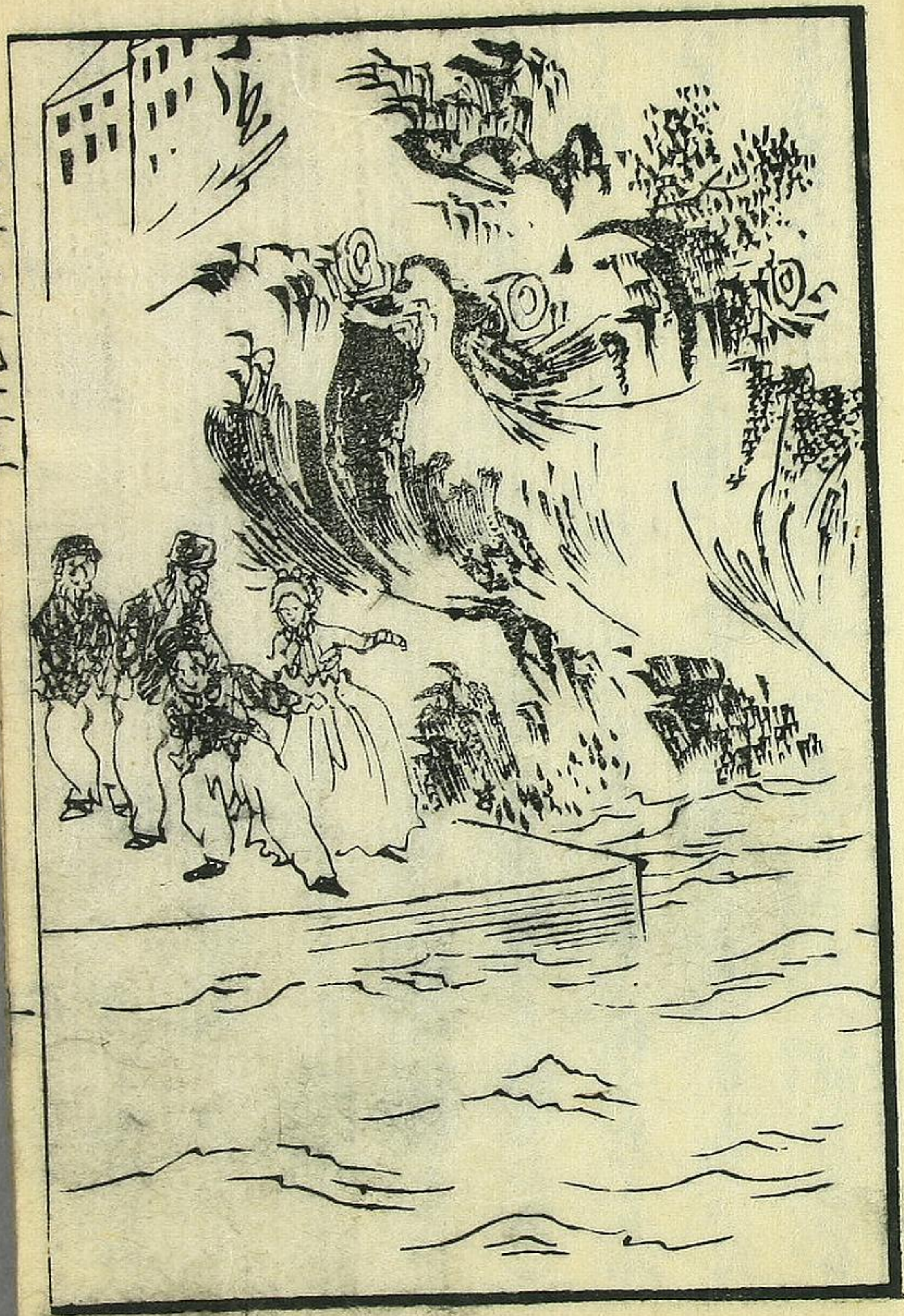
ふんぎや
こ史馬車しやでハイルのかけまぐカイロの市街まちへゆつたが
先さきのあゝ方かたへ何なんもわつたう知しれぬうらカイロの市
中うちと通とほつて、こゝに、彼のピラミドpyramidの石塔いしだう
があるのだが、富とみの港みなと大石おおいし迎むかへるの、こ子こ「港大石みなとのおおいしふよ
つゝか」に秋あき「かうだう」まゝに怖おそがるゝ通「う
だいを言いふだまのり」レテそれうら子こどうしタ「ど
うもかうもその大石おおいしサ小目こめのつゝ玉たまが、
將ハ倒たふさとあたとあひるせん北「目めの玉たまがひのりけ

へりやアベロリと舌とを^だたらう^北「もどんの面^{めん}の
きん^{きん}敷^{しき}物の^{もの}株^く馬^ば麻^まふ^ふ似^にてゐるから。ビラビラとよのそ
の^のび^びり^りした^{した}面^{めん}つ^つた^たる^るさう^{さう}つ^つた^たぜ^ぜも^も「イ、ヨ、か
り^りん^んの^の美^み男^{おとこ}だ^だよ^よ他^たの^のこ^この^の屋^や中^{ちゆう}と^とガ^ガラス^{ラス}隣^{りん}で^で先^{せん}
自^じ分^{ぶん}の^の面^{めん}と^と写^{しゃ}し^して^てる^るお^おね^ねが^がべ^べつ^つか^かつ^つう^うる^るあ^あめ^め
へ^へ神^{かん}楽^{らく}假^{かり}面^{めん}の^の沙^さ吹^ふダ^ダ北^北「大^{だい}き^きふ^ふあ^あせ^せ佐^さヨ^ヨ男^{おとこ}が^があ^あり^りて
色^{いろ}も^もあ^あね^ね入^い」^鏡面^{めん}あ^あの^のと^と強^{かう}淫^{いん}で^でま^まる^るだ^だらう^う
北^北「十二^{じふに}は^は青^{あお}の^の鼻^{はな}ツ^つた^たし^しめ^めも^も」^あん^んダ^ダけ^けも^もこ

カ^カの^のこ^こお^お棒^{ぼう}め^め通^と「そ^そり^りや^やー^ーま^まの^の北^{きた}さ^さん^んが^が十^{じゅう}八^{はち}番^{ばん}で^でむ
き^きめ^める^るあ^あら^らう^うど^どう^うも^もた^たの^のら^らね^ね」^北「北^{きた}や^やあ^あん^んの^の大^{だい}人^{にん}氣^き
ね^ねて^てめ^めぐ^ぐま^ませ^せッ^ッけ^け入^いま^まう^うら^らや^やま^ま〜[〜]わ^わの^のさ^さア^ア佐^さ次^じ
の^のら^らも^もい^いを^をお^おす^する^ると^とど^どつ^つた^たら^らユ^ユ通^と「ト^トキ^キニ^ニお^おま^まや
せ^せう^うカ^カイ^イロ^ロか^から^らア^アレ^レキ^キサ^サン^ンデ^デル^ルま^まで^でま^まる^る」^の乃^の乃^のぶ^ぶま^まで
ま^まね^ねら^らう^うら^ら侍^しう^うら^ら口^{くち}と^とお^おま^まと^と新^{しん}貨^か幣^{へい}十^{じゅう}二^に銭^{せん}の^の債^{さい}い
と^とお^おす^すこ^こと^とさ^さや^やう^うぜ^ぜ北^北「使^し金^{きん}と^とお^おイ^いち^ちや^やア^アの^の幣^{へい}と
つ^つね^ねッ^ッて^てお^おと^と巻^まイ^いて^てお^お耳^{みみ}を^を被^{おほ}て^てあ^あら^らう^うと^とお^おる^るこ^こと

ん坊らんぼうの位の河がわを二米にまいと二百にひゃくぐ買かった替紙かへしの烟たばこ
 を入いれと金かね巾きんで張はつ編幅へんぷく今いまを監とらしたと言いつて
 呂宋ろもく船ふねの二百五十にひゃくごじゅうをかりもこぎぬりて船客せんかくふれら
 きたのにおほしうつたヨ通よとハアそれうらまへまへぐみ
 馬車ばしやへ乗り込こんでアレキサンデルへつづろのるふるイ
 う方かたぐ人ひと物ものあつてけいふエデフトの北岸きたがしめあたる
 港みなとぐ地ち中海ちゅうかいふ臨のぞんである土地とちぐそろうさい海かいのめじ
 め洲しゅうとものうつととあるありう洲しゅうとのるふあるうら地ち

中海ちゅうかいとのめそろうぐ貿易くわいぎも盛さかなりとるへくめざりある
 大港おほみなとサ市街しやがい中ちゅうふ戲場あそびばがある妓樓きろうもあはしある彼かれも
 建屋たてやで中ちゅうを坊ぼうが珊瑚さんご珠しゆを賣うつてある換かりの日ひかの
 縁日えんぴつもある人ひとが鬼灯きとうとりあるわらだ子ことつとせき居ゐるはと
 中ちゅうめてあるもんだうら船客せんかくがよなるのたひふ幕まく祝いわい
 うらとらめづぐ這入こいして入いると今いま幕まくがあつてなぐそ
 こで知らぬの鈴すずがガラくうつてあると中ちゅうを賣うつる異人おんじん
 がパンのはしうあるトほいで舞臺ぶたいをもつるのヲ番ばん



石井良一



○倭客三名
マルタ嶋江
上陸の圖

西洋列島

こゝろあるのう子^み
 りつてもむねぐもこやあんの
 りつ通^とうもどんのをほしめぶようやどまわ^おく男^{おとこ}の助^{すけ}
 グのワ通さん通^か「僕も先刻^{さうき}うふてらめたところまで
 あでな估局^{かりかん}をどういころめるかと止^とめてあでなコウ
 コウ高文化^{かうくわふ化}の波^{なみ}をあらうと虚^{うつら}のまを止^とめるせん
 ナニて芝居^{しばい}の一件^{いつけん}はまじにかまひがわるいほど外^{そと}のふり
 実録^{じつろく}サハテ茶利^{ちやり}がよるね人^{ひと}であや講釋^{こうしゃく}陰^{いん}系^{けい}ふ
 なつくとあまのヤチ^み「あんの外^{あつ}のことだつても虚^{うつら}だつてん^實

とうらだつわやいの人だ通「イヤ他うたのこころ西洋せいよう様やうの
 と毎日まいにち素直すなはく暗記あんきしてゐるのだうら本の通りとおりで居ゐる
 ね人のせいせいあらうちやく者ものめがまゐまゐるうゝゝゝそりあらわれち
 やア脱走だつそうダトそのかゝとたつてそいごとのなり北きた「ア小野郎こやろうめエ
 だんくゝあまはつゝゝゝのりやアグツていひじとてした者を馬うま
 麻あゆしてけつうるぜお「それだうら借七せしち老丈らうぢやうとけんうらとむ
 かり者とあらアナ通と「仲僕なかつやくがカイロのピラミド」とアレキサ
 ンデルしんたの市街いちがいをさん物ものをねうら傳聞でんぶんのまふても紀行きこうへ書か

留やうとあつたらば彼奴が愚弄されたのが好事であらふ
不如先非く北せんひの蜜柑の皮跡とある一厘の皮が
皆いであつたらアエトるアイのたが首をたつた

さうたはふ不案内ある道程を

だう地理ともまづあるあひさう

通あつて彼奴の口の達者あるあやアあやべうまのヨ北
とど自己のことつけやうた

小野糸のちめめとあるまじ

不覚ちあきださうぐな肩

船の地中海と目的として西へつと進むる日
あるがマルタ島ふまたりは島も島村英吉利領めし
て地中海の中程ふあり土地もさうめて岩山多く平地
少るけきと要害の場あるもの外寇と防禦の爲
ふ大造る臺場と築き用心堅固の備へあり

海中ふけよりつたらし丸太島

堅固と港の月あるうはも

帆ふがしらしらの丸太まるたの端はしへまよまよのるも

退風たいふうをままつつのころころももるるるる海うみ

是これよりマルタマルタ島しまへ船ふねを寄よせ風待ふうまちをるるすすつつづづううのひ

まふ弥や布ふ北きた八はちのふたりふたりへ例れいの通とほ布ふをそそのううー

て島しまの基もと場ばを見み物ものせんせんとこ個こううももつつままと陸りくー

う島しまの中ちゆうをぶぶららつつままぬ

西洋道中膝栗毛十一編上之巻了

010190522780

